

全を折願する仏の足跡が残されている。次の四十七番札所八坂寺は八つの坂を切り開いて建てられた事からこの寺の名前が付けられたそうだ。本堂と大師堂の間には「極楽道」「地獄の道」が設けられている。四十八番札所から五十番札所とまわり、次の石手寺と向う。この寺は最初は安養寺としたのが始まりだったが、心ない長者「衛門三郎」が大師を求めて巡礼に出、途中病に倒れたが枕元に大師が現われ「衛門三郎」と記した石を握らせた。其の後この地の領主の嫡男が手が開かない為、願をかけてと男の子の手が開き「衛門三郎」と記した石が出て来たので人々は衛門三郎の生まれ変わりとなり、この寺を石手寺と称される様になったとか。

さて、出発して九ヶ寺参り、今日宿泊先道後温泉へと向う、有名な坊つちゃん電車、からくり時計など眺めながら宿泊先のホテル古浦園で一日の疲れを温泉でくつろぎ、御馳走を頂き、眠りについた。さあ二日目の出発です。

最初は五十二番札所太山寺、車から降りると納経所は道の傍らにあり、そこから五百米の石畳の参道沿いには、かつての遍路宿が樹木に覆われた中に昔の面影を残していた。急な石段を上るとそこには札所の中で二番目に古いと云われる本堂が威風堂々とたぐんでいた。次の円明寺は平地で山門を入ると楼門、本堂、大師堂が整然と並び、又山門の左手には何かカキリシタン灯籠があったのは珍しい。そして五十六番札所泰山寺は石垣に囲まれて佇むこの寺には山門は無い。本堂、納経所、宿坊が細長く並び、六道輪廻を表わした地蔵尊があり、石仏がその周りを囲んでいる。次の南光坊は札所の内での坊のつくのは、こ、だけでもとくく大山祇神社の別当寺として建てられたもの、側に赤い鳥居があるのもうなづける。次の仙遊寺の本堂へ向う途中には無数の石仏が並んだ様子は壮観だった。国分寺の入口には小さな大師様が手を差し伸べて「握手をして願い事を一つ唱えて下さい。」と記しておられた。第六十一番札所香園寺は敷地一万坪の中におよそ寺らしく無いコンクリートの大型堂二階に入ると巨大な大日如来、脇には、不動明王、子安大師が祀られている。本堂だけでも六百席あまりの固定席があり、まるでコンサートホールの様だった。次の宝寿寺では修業僧といわれる若い僧から石けんのお接待を頂く。たゞ差出されて足

早に立去られた。頭の下がる思いがした。次の吉祥寺と前神寺とお参りし今日の宿、横峰山の山麓にある民宿「京屋」に入る。石槌山系の山中、目下にはダム湖があり恐ろしい位に静かな所だ。大勢の巡拝の方達と共に食事をし「京屋」での一夜を過ぎ翌朝六時半に出発、現地バスで横峰寺へ向う。曲りくねった道をバスで二十分程行き、歩いて今度は七曲りの細い道を下へと降りる。山中の朝の冷気の立ちこめる谷へ降りて行くと、しんと静まり返った朝もやの中に寺があった。次は六十五番三角寺、登りの険しい七十段余りの石段を上った山門には梵鐘がつけられ、本堂は安産の仏様である事から女性の信仰が厚い相だ。次は雲辺寺、香川県と徳島県を跨ぐ四国山脈のこの寺は標高千メートル、昔は札所随一の難所と云われていたが今はロープウェイで七分程で登れる。大師が十六才にして開山、年々境内も整備され、ロープウェイを降りてすぐ目にするのが高くそびえる毘沙門天像、その裾に広がる五百羅漢の数の多さに圧倒されそう。

「はるばると雲のほとりの寺に来て月日を今は麓にそ見る 空海」 昼食を雲辺寺の下で頂き大興寺へと。次の神恵院、観音寺は一寺二札所四国で唯一のもので観音寺本堂は昭和三十年に重要文化財に指定される。次の本山寺は田園風景の中にあり遠くからでも見える五重の塔は格好の目印となる。本尊の馬頭観音は札所で唯一のものとか。さあいよいよ最後の札所弥二寺へ。

これ又幾重にもくねった山道をタクシーに分乗し中腹から徒歩で大師堂のある境内より更に百七十程の石段を上った岩肌に囲まれた本堂に向う。本堂を下つての大師堂は土足厳禁で岩の中の様な所にローソクのほのかな灯りが神秘的な気分をさせてくれる。

今回のお参りは難所が多かったが、皆様に励まされ乍らお参りする事が出来ました。これからも体に気を付け次回も元氣にお参り出来る事を願っております。尚今回は私の亡き姉（千和）の娘が母親の供養にと皆様と同行させて頂きありがとうございました。

最後になりましたが此の巡礼の旅を企画しい下さいました御住職、そして奥様を始めとし総代の皆様ほんとうに有難うございました。

皆様方の益々の御健勝をお祈り致します。 合掌

御詠歌だより

木村 須美子

新しいお年をお迎えできましたこと、皆々様と心よりお慶び申し上げます。とし月の立つのも早いもので、私が御詠歌を習い初めてから早や八年近くになります。或る日お寺の奥様より「御詠歌を習ってみませんか」と心優しいお誘いのお言葉を頂きましたが、余りにも突然なこと一瞬戸惑って直ぐにはご返事ができませんでした。私にはその才能知識は全く無くお断りしようかと思いましたが「心配しなくてもよいのよ、先生方それに先輩の方々が親切に教えて下さるので大丈夫です。でも不安なためその場は家に帰って家族に相談いたしましたところ「御詠歌を習うことそれはよいことだ」その一言に決心がつきそれから毎月二回習わせて頂くようになりました。特に昨年は頭出しのお役目を頂いてからは、自分に厳しく家庭にあつても毎日／＼の練習に励み私自身が情けなくなることもありまして。



たが、奥様御先輩方達からの御指導を受け、練習／＼の繰り返しお唱えすることに依って此の道の有難さをも身と心に感ずるようになりました。練習の後は皆さんと会話はずみ、時には駄じゃれ言葉も飛び出し、大声で笑い「わ」の心を大切にグルーブの結束を密にして、日頃のストレス解消にも役立ち和気藹々のうちに心も明るくなって楽しいひと時を過ごさせて頂いております。そして、第二十回中国ブロック大会より毎回参加させて頂き、昨年十一月八日第二十六回中国ブロック奉詠舞山陰大会に出場し若奥様グループ四名の方々は目出度くも、入賞されたことお慶び申し上げ度くも、入賞をお祈りいたします。私、出場する度に何時ものことですが、奉詠直前には興奮で心臓ドキ／＼頭の中は真白になりますが、いつの間にか平常心に戻り練習時の奉詠が出来ましたことは、何よりも有難く思っております。之からも健康に注意して奥様御先輩の方々のご指導を仰ぎ皆様と共に御詠歌の道に益々精進し度いと思っておりますので、この上とも宜しくお導びきをお願いいたします。そして一人でも多くの方々が御詠歌を習いお唱えすることによって、お大師様のお教えに近づき合せてご先祖様のご供養にとめて、身も心も穏やかであられますことをお祈り申し上げます。 合掌

寺でお葬式を

最近、自宅外で葬式をされる方が増えてまいりました。こういう時こそ菩提寺をご利用下さい。祭壇料は必要ありません。使用料として当日のみの場合は十万円、前日からの場合は十五万円頂きます。

権中僧正に

住職は、三月三十一日付で、本山金剛峯寺より権中僧正に任命されました。

墓地

朝日寺を間近に望む景勝の地に、墓地を造成しています。車で墓地内まで入れます。一区画七、五平米（二、五米×三米）で永代使用料六十万円、年間管理費三千六百円です。残り少なくなりましたので必要な方はお早く申込み下さい。

役員名簿

総代会

(◎総代長、○副総代長)

- | | | |
|-----|-------|-------|
| 大東井 | 川野健郎 | 川野重 |
| 中東 | 木下政夫 | 森隆明 |
| 市場 | 坂口鶴一 | 木下音一 |
| 西土井 | ◎島岡篤 | 藤本太郎 |
| 庄内 | 田中鶴夫 | 松井立男 |
| 大土井 | 木村章 | 砂場耕二 |
| 高内 | ○千種司郎 | ○木村功 |
| 下寺 | 市守用二 | |
| 問口 | 久本 巽 | 山本達雄 |
| 前泊 | 武内 正道 | |
| 虫明 | 内田勲一郎 | |
| 尾張 | 山根俊雄 | |
| | 松下 隆 | 清水佐伯男 |

密教婦人会

(◎会長、○副会長、△会計)

- | | | |
|-----|-------|-------|
| 敷井 | 川野美佳 | 川野尚子 |
| 大東 | 福井清子 | 心光君子 |
| 中東 | 大倉信子 | △西岡仁美 |
| 市場 | 奥山洋子 | 佐賀保子 |
| 西部 | 大倉昭子 | 蓬玉枝 |
| 大土井 | ◎北野周子 | 児玉洋子 |
| 庄内 | ○三浦友江 | ○森下英子 |
| 高内 | ○千種友江 | |
| 下寺 | 藤中ひさみ | |
| 問口 | 山本六子 | 山本早苗 |
| 前泊 | 内田瑛子 | |
| 尾張 | ○武内くみ | |
| | 内田美弥子 | |
| | 安達米子 | 内田ひろみ |

「朝日寺宝物保存会」よりのお願い

度重なるお願いにもかかわらず、三百十三名という多数の方にご入会いただき誠に有難うございます。今、既に一部の宝物を修繕に出しております。出来上がった物を七月に会員の方に見ていただく様子定しております。

永代供養塔

後継ぎや子供がなくて、お墓を祭ってくれる人がないという方が段々増えていきます。寺ではそういう方の為に永代供養塔と名付けた墓を建立しています。家族にかわって、寺がお盆やお彼岸にはお参りし、お花やお線香を立てて、お経をあげ供養をいたします。永代供養料は二十万円です。

